

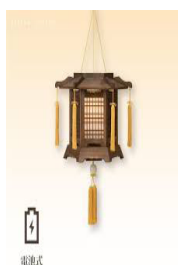
り便寺通正

令和七年お盆号

先祖と生活をともしする一週間

お盆は正式には孟蘭盆会といい、インドにはじまり中国に伝わった、地獄にいる先祖を救うための佛事ですが、日本にきていたような形になりました。日本では冥界の先祖がこの期間、家に帰ってくるものと考えられています。そのため目印が桐灯籠という、軒下に吊るす提灯です。

帰ってきた先祖には床の間にくつろいでいただき、朝夕にできるかぎりのご馳走を備え、お茶・くだもの・お菓子をそなえて楽しんでもらいます。それにはただお供えをするだけではなく、実際に生きている人と同じように接さなければならぬとされています。お位牌に手を合わせるということは「問訊^{もんじん}」という佛教の正式な挨拶のしかたです。お供えの前後は丁寧に合掌しましょう。



ざいせ ほうせ

財施と法施

お布施とは徳を人にめぐらせるということです。僧侶は読経をすることで亡者・ご先祖に佛の教えという徳を施します。これを法施といいます。これに対して子孫は先祖のために財（食物や金銭）を施します。これを財施といいます。お盆の読経は先祖に法施をしてまわる行事です。現在は昔ながらの形態が変化しつつあります。そのような昨今、正通寺では合同供養をおこなっています。毎年、八月十一日にとりおこなっています。仕事で留守をされるかた、おうちでのお参りがむずかしいというかたは、是非、合同供養に参加して法施をうけとり、ご先祖さまに持ち帰り、とどけてください。お申し込みは電話で受け付けています。

正通寺 0869-26-2084